

設 立 趣 旨 書

特定非営利活動法人 神於山保全くらぶ
設立代表者 相良 長昭

1 趣 旨

岸和田市のほぼ中央に位置する神於山は、大阪湾に流れ込む春木川の源流部であり、「神のおわす山」として古くから人々との係わりの歴史をもち、薪の採取などを通し里山として人々の生活に結びついた身近な自然として親しまれ、大切にされて来ました。しかし、近年生活様式や産業構造の変化などにより人々が山を利用しなくなり、放置竹林の拡大やゴミの不法投棄などが目立ち、荒廃が進んでいる状況でした。

このような現状のもと、市民による里山保全活動及び里山資源の活用の実践を通し、人々がかかわり続けることによって成り立ってきた多様な生き物が生息する里山の自然環境を維持し、現在の人々の生活に応じた新しい里山の価値を明らかにし、人々がかかわり続けるシステムを作り出すことが必要であると考えられます。

特定非営利活動法人「神於山保全くらぶ」は、人々と里山のつながりを回復し里山文化の継続発展を図り、里山を「緑の財産」として保全し、次世代に継承していくことを目的として、市民が里山保全活動に対する理解を深め、活動の担い手となって、持続・継続できる新しい里山保全システムを作り出すことを目指して活動していきます。また、子ども達にも里山体験活動や環境教育を通して生物多様性の意義を学ぶ機会を提供し、地域住民との交流を促進して、自然と共にある地域づくりに寄与したいと考えています。

このことはNPOを組織し活動する市民のみならず、不特定多数の市民の利益に寄与するものです。

特定非営利活動法人神於山保全くらぶの前身である任意団体「神於山保全くらぶ」は、既に5年の活動実績を有していますが、組織の充実を図り、社会に対して認知を深め、信頼性のある活動を継続していくために法人格を取得するに至りました。

2 申請にいたるまでの経過

任意団体「神於山保全くらぶ」は1999年に開講された岸和田市環境保全課主催の「里山ボランティア育成講座」の受講終了生が中心となって2001年4月に結成されました。定例活動として月2回神於山の活動地において下草刈りや除伐、林床管理、竹林の整備等の里山保全活動を行うとともに、岸和田市が主催の里山ボランティア育成講座の内容検討に参加し、会員が講師として協力しています。また、関連団体とともに年1回神於山まつりを実施し、その他市主催の関連行事に参加・協力して、広く市民に里山保全活動について理解を深めてもらうよう活動しています。さらに、学校や地域のグループ・団体に対する自然学習や自然観察会、里山体験にも協力してきました。

その経過において、2003年9月には「神於山地区」（180ha）を対象とした自然再生推進法に基づく「神於山保全活用推進協議会」（国、府、市、農林漁業団体、地元町会、ボランティア団体等38団体）が結成され、2004年10月、同法に基づく「全体構想」を策定、任意団体「神於山保全くらぶ」は大阪府と共同で2005年6月に事業実施計画を提出しました。

2006年4月の定期総会において、組織基盤を固め、責任をもって活動を継続していくためにNPO法人化が必要であるという主旨を提案し検討準備を進め、2006年10月28日、任意団体「神於山保全くらぶ」の臨時総会において会員の承認を得、同日特定非営利活動法人「神於山保全くらぶ」設立総会を開催しました。